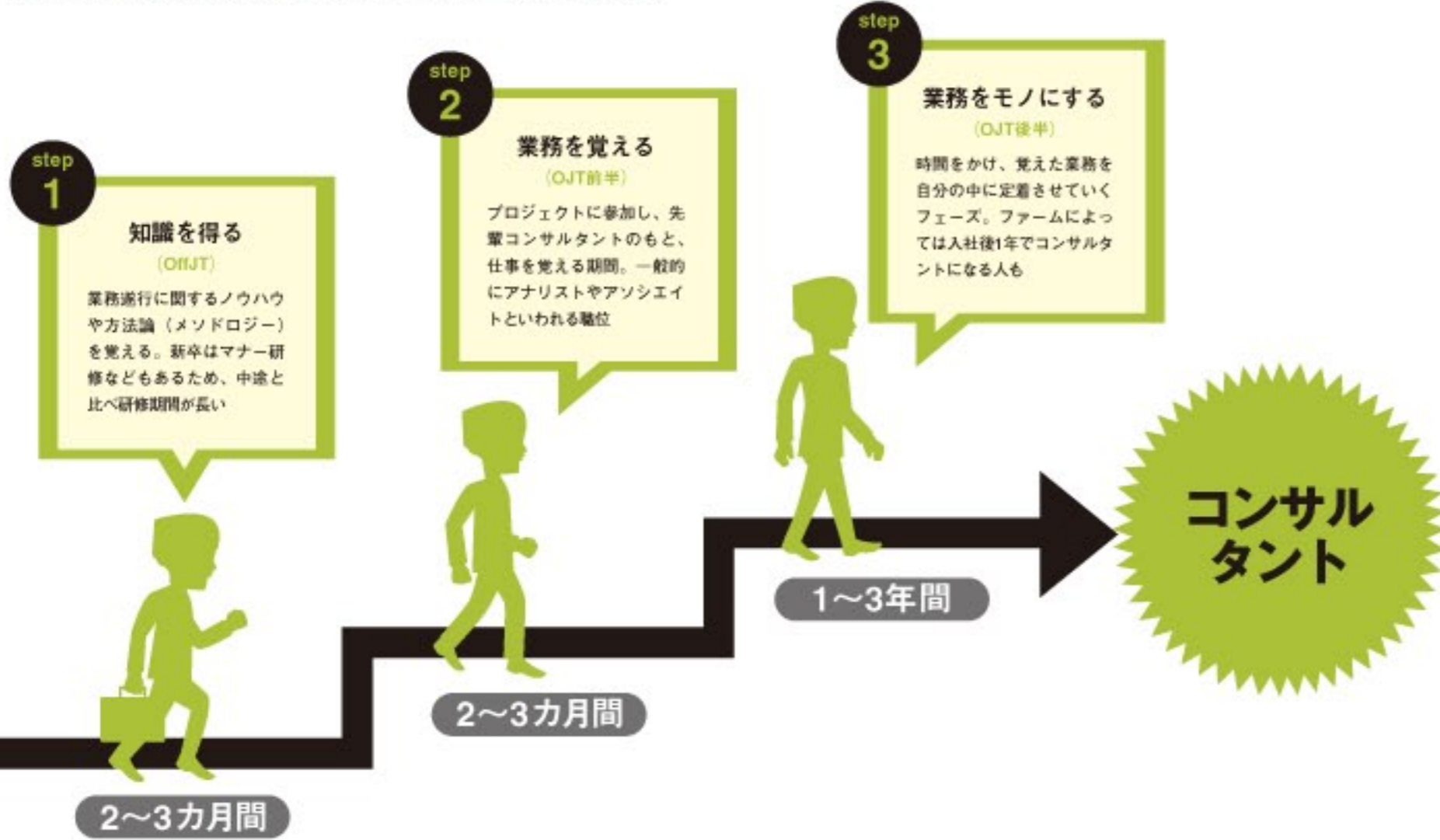


コンサルタント・デビューまでの道のりを解説!

独り立ちまでのステップ1・2・3

ファームに未経験で入社した新人は、どんなステップを踏んで一人前のコンサルタントへと成長していくのだろうか？
新人を監督する立場である、人事のエキスパートに話を聞いた。



「携わるプロジェクトごとに仕事内容が変化するコンサルティングという仕事の性質上、「どこからどこまでがOJT」と、切り分けて考えるのは非常に難しい」
そう話すのは、大手外資系コンサルティングファームで人事を担ってきた大森崇氏だ。
「とはいえ、新人コンサルタントを対象にしたOJTに関していえば、どんなファームでも任せられる仕事に大きな違いはありません。それはマネジメント側が新人に学んでほしいと考えているスキルが共通しているためでしょう」
新人が任せられる仕事として代表的なのが、議事録・報告書の作成、部門アンケートの実施、データの収集・検証、プレゼンテーション資料作成など。こうした作業を通して、マネジメント側はデータ処理能力や分析力、情報収集能力、プレゼンテーション技術といった、コンサルタントの基礎スキルを磨いてほしいと考えているという。
「もう一つ、OJTの持つ役割として忘れてはならないのが、現場感です。先に挙げたような技術は、OJT前に行われる導入研修でも学習する。ただ、経験が伴わない



リネアコンサルティング株式会社
代表取締役社長
大森 崇氏

新卒で大手総合人材会社に就職した後、外資系コンサルティングファームへ人事部採用責任者として転職。現在は独立し、コンサルティング業界を中心とした人材紹介業や人材採用に関するコンサルティングサービスを提供している

状態では、ただの頭でっかちになりかねない。そこでOJTを通して、現場を実際に経験することで、知識を「使える技術」として経験値化させる。そうやって現場で磨かれる、対応力、応用力、順応力こそが、後々コンサルタントの強みとして発揮されるんです。ほかにもOJTは、2~3年目の若手コンサルタントが新人の面倒を見ることで精神的に成長するなど、副次的な側面もありますね」
このように、コンサルタント育成の上で欠かせないファクターであるOJT。次のページからは、そのスケジュールや具体的な仕事内容について見ていきたい。

プロフェッショナルの仕事力はいかに養われるのか?

コンサル業界の秘伝OJT

コンサルティングファームに入社し、コンサルタントとしてデビューするまでには厳しい修行の道が広がっている。どうやってプロフェッショナルの仕事力を養っていくのか、コンサルティング業界の「OJT」に迫ってみたい。

取材・文/武田敏則(グレタケ)、桜井花(編集部)
撮影/柴田ひろあき イラスト/漢芳夫



The Secret of "On the Job Training"